

幅広い活動と伝統をまもる

向津具農進会

向津具農進会は、昭和二三年日置農業高等学校向津具地区同窓会として発足、その後、昭和四三年今の農進会と名称を改めた、二五年の歴史と伝統をもつグループである。

農業の後継者として、地域の産業振興ととり組む外、社教活動から文化活動まで、幅広い活動をつけている。

会員は約二〇〇名で、白木部落元永素さん(四四才)が会長としてまとめている。

最近の動きをのぞいてみると、農業経営についての講演会の開催、水稲の試験圃の設定、農業試験場の視察、向津具米の試食会、意見発表会、夏の盆踊大会、地区ソフトボール大会、町内駅伝、武道大会への参加、又二〇〇年前から伝わるという油谷島の楽踊の復



活保存と発表等、めざましいものがある。

ことしは福祉施設の慰問を計画しているという。

川尻岬キャンプ場の美化清掃奉仕も、若い会員の社会奉仕の一つとして関係者から感謝されている。多彩な行事は会員の話し合いによって実行にうつされ、それぞれ責任者を定め、自主的に運営されている。

「町内のいろいろな団体と交流を深め郷土の発展に努力したい」と、会長の元永さんは語る。

若い独身会員のために、花嫁多数を募集中とか。は、えまじい限りである。

町内又芸

第六回人丸忌俳句大会

油谷俳壇では、来る四月八日午前九時三〇分から、人丸神社で、第六回人丸忌俳句大会を開きます。次のおとり俳句の募集を行います。兼題「燕の巣」「当季雑詠」各二句、三月一〇日まで一〇〇円同封の上、油谷町人丸林黙水宛、投句のこと、当日会費三五〇円、中食は各自持参のこと、賞品多数献句一句ご惠贈を。

油谷俳壇

大部屋も小部屋も子ども三ヶ日絵と、にもにるす子ども初日記
父知らぬ子が仏壇の父に屠蘇
吉村 節子
中尾 浮木
子のくれし賀伏の牛の瞳の太き
木 黙水

出場した会員、つり、みかん、うに、クジラ等々地域の特色を生かしたゼッケンの工夫がみごと。



犬はつないで飼いましょう

県飼犬条例できる

このほど山口県飼犬等取締条例が制定されました。この条例は飼犬が人や家畜農作物に被害を与えたり、私たちの家の周辺をよごすのを防ぐことを目的とした、いわゆる飼犬の取締条例です。その主な内容は次のとおりです。

- ①犬はいつもつないで飼うこと。
- ②不要の犬を捨て、はいけない。
- ③犬が人をかんだときはすぐ役場か保健所へ届けること。
- ④犬が他人に迷惑をかけるないように責任をもつて飼うこと。

子どもらに双六負けて喜寿の春
山茶花の月日を視力なきまに
中間 照枝
ダイヤルをまさぐる指のかじかみ
蘭 添水
大谷 展生

油谷短歌会だより

病む吾に厄除土鈴を鳴らすなりく
るそん山に参り来し子が
岡田 次郎
磯曲いっぱいの幅もてよりく冬
うねりその頂点に孫波のせて
岡林 啓一
がんぶりの上まで来たる磯つぐみ
何をためらう首うごかして
天野白水郎
茜色しみこむ湾の夕暮れに潮満ち
てくるふくらみを見る

川柳

共産党開院式が気にいらず
ため息を出したで支払い負けられず
へボ将棋腹をたてたり笑ったり
川尻 平川柳照

となつており、つまり飼主として行なつてはならないことや守らなければならないことが規定されたこの条例はことしの四月一日から適用されることになっています。犬を飼っている方は条例違反や苦情をいられないように注意しましょう。

またこの条例に違反すると、三万円以下の罰金から科料までの罰則が定められています。なお町内には三六〇頭あまりの登録犬がいます。飼犬についてのご相談は保健衛生係へ。

三月家庭の日のスローガン

こどもの成長を祝いみんなの夢を育てましょう。
〇進級、進学、就職、卒業を祝う会をもち、明るい希望をもたせるとともに、常に努力を忘れず一歩一歩前進する意欲をもたせよう。

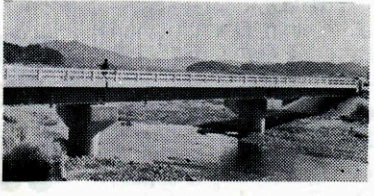
〇就職することもには職場における心がまえを話し合ひましょう
〇故郷を離れている家族にみんなて便りを送ろう。
〇入学することもには次のことを話し合つておこう。
・学用品、衣服、はき物、雨具のこと。
・身体検査で悪いといわれたところはなおしておく。
・交通安全についてよく教える
〇春休みの過ごし方を話し合う。

親子の対話を

毎年三月は卒業進学就職と、生徒にとっては希望と不安、緊張と解放感等が入り乱れ、非行や家出等が多い時期です、親子の対話の機会をつくり、明るい家庭づくり心がけたいものです。
長門署防犯係

油谷町めぐり

隅田漫歩



前号では隅田川で鯉のとれた話を書いたが、風土注進家八一頁の久富川の項には、隅田川は河口から二kmは潮の差引があつて、荷船が往来していたと記録されている。今の家畜市場近くで船から荷物をおろしたり、倉庫もあつた。そして土手の松並木の間から帆かけ船が出入りしていた。

写真のところが二km久富川ののぼると、昔鯛が釣れたと伝えられる「鯛の口」がありさらに、「船が迫」もある。大昔の海の入りこみはずいぶん深くああたりに船をつなぐ入江があつたのかも知れない。
写真の橋から一km下流が芝崎と渡場である、この渡船は、長さ約七m、幅一、三mの大きさであつたが、当時の船賃がいくらだったかわからないのが残念である。
芝崎は河原川(今の大方川)の上流から、大水の出た時流してくる材木を集めるところであり、船に積みこんで売渡す、木材の集散地でもあつた。(河原川は川舟も通わなかつたのである)